

修士論文発表会(生物系)報告

2016年2月16日(火)に環境システム分野の修士論文発表会(修士論文最終試験)がM22教室で開催されました。その中から、プロジェクト参加院生の研究発表4件(いずれも生物系)を紹介します。なお、今年度の環境システム分野の修士論文発表は9件あり、生物系の発表は6件でした。都合により紹介できませんでしたが、プロジェクトと関係した発表が、以下に紹介する4件以外に2件:計画系の発表(佐藤 歩君(川崎研)「日本のジオパークに関する研究」)、生物系の発表(加藤沙織さん(黒沢研)「ネムノキ頭状花序に見られる頂生花と側生花の形態的分化及びその繁殖生態学的意義」)がありました。

猪瀬礼璃菜さん(兼子研)「シダ植物標本におけるDNAバーコーディングの有効性評価」は、福島大学生物標本室(FKSE)に所蔵されている磐梯山周辺から採取されたシダ植物標本98種515枚を用いてDNA解析を実施し、*trnH-psbA*遺伝子間領域のDNAバーコーディングの有効性を明らかにした研究です。30年以内に作製された標本であれば、塩基配列を取得できる可能性が高いことが明らかになりました。また、種内多型が確認されたことから、*trnH-psbA*遺伝子間領域のデータを蓄積すれば、遺伝的多様性を把握することも可能であることが示されました。



緒勝祐太郎君(塘研)「福島県裏磐梯地域のオサムシ科甲虫群集に関する研究」は、1888年の磐梯山噴火後の植生遷移途中相におけるオサムシ科甲虫群集を、その内部にある人為的な影響を受けている環境が遷移途中相のオサムシ科群集に及ぼす影響とともに明らかにした研究です。遷移途中相では自然度の高い森林に生息する種がすでに出現しており、噴火による攪乱を受けなかった森林とは群集構造が異なることが明らかになりました。また、人為的な攪乱を受けている場所は森林性種やジェネラリスト種が利用する環境であることが示されました。



木目澤友梨恵さん(塘研)「*Thrips* genus-group(アザミウマ目:アザミウマ科)に属するアザミウマ類の分子系統学的研究」は、18S rDNA領域を用いて、*Thrips* genus-groupに属する各属の単系統性、各属間の系統関係などを明らかにした研究です。先行研究よりもかなり属・種を増やして解析しましたが、*Thrips* genus-groupの単系統性は支持されました。一方、*Thrips* 属や*Stenchaetothrips* 属の単系統性は支持されませんでした。また、いくつかの属では固有派生形質とされている形質が系統を反映していない可能性があることが示されました。



野田真優子さん(難波研)「桧原湖北部に分布する大腸菌群の*lacZ*部分塩基配列に基づいた由来の推定」は、裏磐梯地域にある桧原湖およびその流入河川、流入河川付近から得た野生哺乳類の糞、解剖によって得た野生哺乳類の直腸内容物から分離した大腸菌群のDNA解析を実施し、*lacZ*遺伝子の部分塩基配列(264bp)に基づいてグループ分けを行った研究です。桧原湖北部やその流入河川から得られた大腸菌の20%は由来が推定できることが明らかになりました。ただし、大腸菌の各グループは必ずしも種特異的ではないことも示されました。



発表した皆様、2年以上にわたる研究お疲れ様でした。どれもボリュームのある、素晴らしい発表でした。次は是非、投稿論文にして、成果を学外(できれば世界)に向けて発表して下さい。